

令和3年度全国学力・学習状況調査

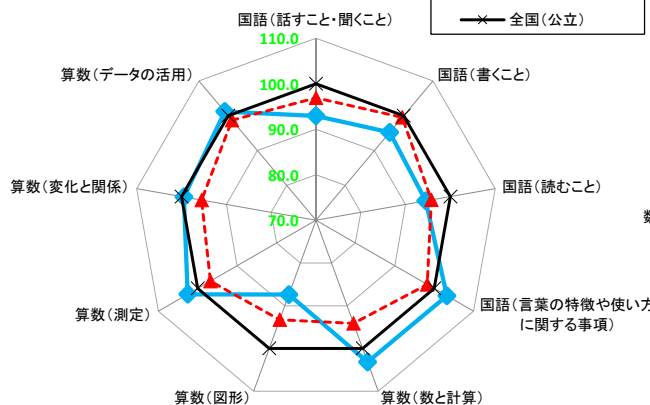
■長沼町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:83人）（中学校数:1校、生徒数:78人）

【教科全体の状況】

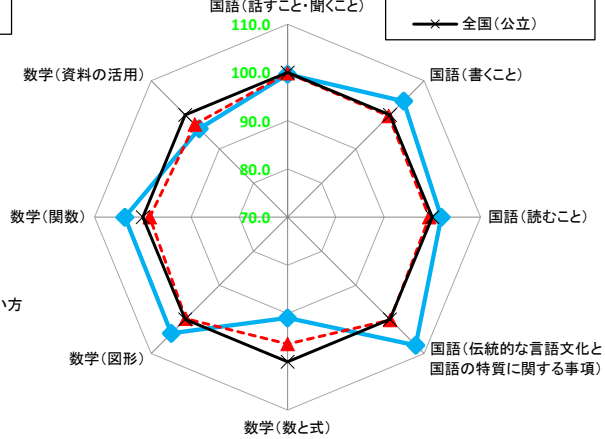
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	67
算数・数学	70	56

小学校

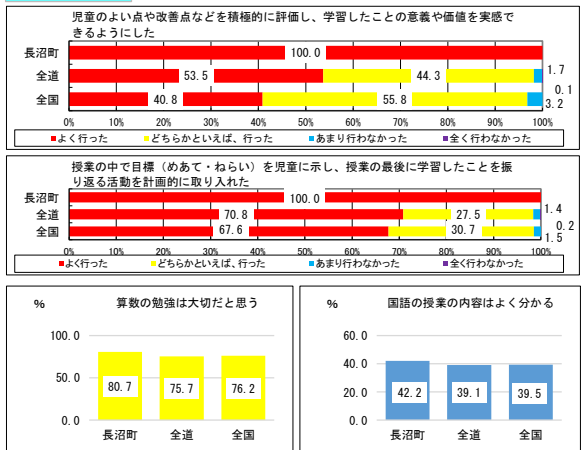


中学校

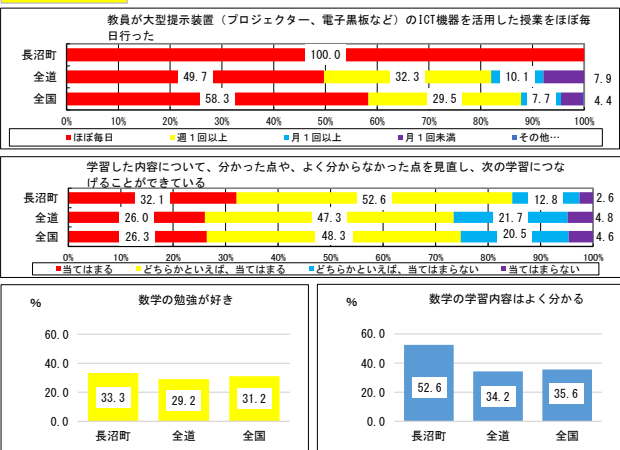


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童のよき点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、算数の勉強は大切だと思う児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、国語の授業の内容がよく分かる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）のICT機器を活用した授業をほぼ毎日行なったことにより、数学の学習内容がよく分かる生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町として、小中一貫教育推進会議における小学校及び中学校の教育課題の共有、改善策の検討を行ったことにより、授業改善が図られ、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげたり、数学の勉強が好きになったりした生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【長沼町の学力向上策】

- ◎ 教育委員会における各種調査結果の分析及び学力向上に向けた取組の推進
- ◎ 小中一貫教育推進会議における小学校及び中学校の教育課題の共有、改善策の検討
- ◎ 授業改善推進事業における教員の指導力向上に向けた研修支援の充実
- ◎ ICTを活用した学習活動の一層の推進